

妙法蓮華經。妙莊嚴王本事品。第二十七

爾の時に佛、諸の大衆に告げたまわく、

乃往古世に、無量無邊不可思議阿僧祇劫を過ぎて、佛いましき、雲雷音宿王華智・多陀阿伽度・阿羅訶・三藐三佛陀と名けたてまつる。國を光明莊嚴と名け、劫を喜見と名く。彼の佛の法の中に王あり、妙莊嚴と名く。其の王の夫人、名を淨徳という。二子あり、一を淨藏と名け二を淨眼と名く。是の二子、大神力・福德・智慧あつて、久しく菩薩所行の道を修せり。所謂檀波羅蜜・尸羅波羅蜜・羼提波羅蜜・毗黎耶波羅蜜・禪波羅蜜・般若波羅蜜・方便波羅蜜・慈・悲・喜・捨・乃至三十七品の助道の法、皆悉く明了に通達せり。又菩薩の淨三昧・日星宿三昧・淨光三昧・淨色三昧・淨照明三昧・長莊嚴三昧・大威徳藏三昧を得、此の三昧に於て亦悉く通達せり。

爾の時に彼の佛、妙莊嚴王を引導せんと欲し、及び衆生を愍念したもうが故に、是の法華經を説きたもう。

時に淨藏・淨眼の二子、其の母の所に到つて十指爪掌を合せて白して言さく、

願わくは母、雲雷音宿王華智佛の所に往詣したまえ。我等亦當に侍從し親近し供養し禮拜すべし。所以は何ん、此の佛一切の天・人衆の中に於て、法華經を説きたもう、宜しく聽受すべし。

母、子に告げて言わく、

汝が父、外道を信受して、深く婆羅門の法に著せり。汝等往いて父に白して興して共俱に去らしむべし。

淨藏・淨眼、十指爪掌を合わせて母に白さく、

我等は是れ法王の子なり。而るに此の邪見の家に生れたり。

母、子に告げて言わく、

汝等當に汝が父を憂念して爲に神變を現すべし。若し見るところを得ば心必ず清淨ならん。或は我等が佛所に往至することを聽されん。

是に二子其の父を念うが故に、虚空に踊在すること高さ七多羅樹にして、種種の神變を現す。虚空の中に於て行・住・坐・臥し、身の上より水を出し、身の下より火を出し、身の下より水を出し、身の上より火を出し、或は大身を現じて虚空の中に満ち、而も復小を現じ、小にして復大を現じ、空中に於て滅し、忽然として地に在り、地に入ること水の如く、水を履むこと地の如し。是の如き等の種種の神變を現じて、其の父の王をして心淨く信解せしむ。

時に父、子の神力是の如くなるを見て、心大に歡喜し未曾有なることを得、合掌して子に向つて言わく、

汝等が師は爲めて是れ誰ぞ、誰の弟子ぞ。

二子白して言さく、

大王、彼の雲雷音宿王華智佛、今七寶菩提樹下の法座の上に在して坐したまえり。一切世間の天・人衆の中に於て、廣く法華經を説きたもう。是れ我等が師なり、我は是れ弟子なり。

父、子に語つて言わく、

我今亦汝等が師を見たてまつらんと欲す。共俱に往く可し。

是に二子、空中より下りて其の母の所に到つて、合掌して母に白さく、

父の王、今已に信解して、阿耨多羅三藐三菩提の心を發すに堪任せり。我等父の爲に已に佛事を作しつ。願わくは母、彼の佛の所に於て、出家し修道せんことを聽されよ。

爾その時に二子し、重ねて其その意いを宣のべんと欲ほつして、偈げを以もつて母ははに白もつさく、

願ねがわくは母我等ははわれら 出家しゅつげして沙門しゃもんとならんことを放ゆるしたまえ

諸佛しよぶつには甚はなはだ値あいたてまつること難かたし

我等佛われらほとけに隨したがいたてまつりて學がくせん

優曇波羅うどんばらの如ごとく

佛ほとけに値あいたてまつること復またこ是れよりも難かたし

諸難しよなんを脱まぬがるること亦またかた難かたし 願ねがわくは我わが出家しゅつげを聽ゆるしたまえ

母はは即すなわち告つげて言いわく、

汝なんじが出家しゅつげを聽ゆるす。所以ゆえは何ん、佛ほとけには値あいたてまつること難かた

きが故ゆえに。

是こゝに二子し、父母ぶふに白もつして言いさく、

善哉ぜんざい父母ぶふ、願ねがわくは時に雲雷音宿王華智佛うんらいおんしゆくおうけちぶつの所みもとに往詣おうけいして、

親觀しんこんし供養くようしたまえ。所以ゆえは何ん、佛ほとけには値あいたてまつること

得難えかたし、優曇波羅華うどんばらげの如ごとく、又また一眼げんの龜かめの浮木うきぎの孔あなに値あえるが

如ごとし。而しかるに我等われら、宿福深厚しゆくふくじんこうにして佛法ぶつぽうに生れ値あえり。是こゝの故ゆえ

に父母ぶふ、當まさに我等われらを聽ゆるして出家しゅつげすることを得えせしめたもうべし。

所以ゆえは何ん、諸佛しよぶつには値あいたてまつり難かたし、時ときにも亦またあ遇あうこと難かた

し。

彼かの時に妙莊嚴王みょうしやうごんのうの後宮ごぐうの八萬四千人まんにん、皆みな悉ことごとく是こゝの法華經ほけきやう

を受持じゆじするに堪忍かんにんしぬ。淨眼菩薩じやうげんぼさつは法華三昧ほっけに於おいて久ひさしく已すでに

通達つうだつせり。淨藏菩薩じやうざうぼさつは已すでに無量百千萬億劫まんのつこうに於おいて、離諸惡趣りしよあくしゆ三

昧まいに通達つうだつせり、一切衆生さいしゆじやうをして諸もろもろの惡趣あくしゆを離はなれしめんと欲ほつす

るが故ゆえに。其その王おうの夫人ぶにんは諸佛集三昧しよぶつしゆうを得えて、能よく諸佛しよぶつの

祕密ひみつの藏ぞうを知しれり。二子しかく是ごとの如ごとく方便力ほうべんりきを以もつて善よく其その父ちちを

化けして、心こゝろに佛法ぶつぽうを信解しんげし好樂こうぎやうせしむ。

是こゝに妙莊嚴王みょうしやうごんのうは群臣眷屬ぐんじんけんぞくと俱ともに、淨德夫人じやうとくぶにんは後宮ごぐうの采女さいによ

眷屬と俱に、其の王の二子は四萬二千人と俱に、一時に共に佛所に詣ず。到り已つて頭面に足を禮し、佛を繞ること三市して却つて一面に住す。

爾の時に彼の佛、王の爲に法を説いて示教利喜したもう、王大に歡悦す。爾の時に妙莊嚴王及び其の夫人、頸の眞珠瓔珞の價直百千なるを解いて、以て佛の上に散ず。虚空の中に於て化して四柱の寶臺と成る。臺の中に大寶の牀あつて、百千萬の天衣を敷けり。其の上に佛いまして結跏趺坐して大光明を放ちたまはう。

爾の時に妙莊嚴王是の念を作さく、佛身は希有にして端嚴殊特なり、第一微妙の色を成就したまへり。

時に雲雷音宿王華智佛、四衆に告げて言わく、

汝等、是の妙莊嚴王の我が前に於て合掌して立てるを見るや不や。此の王、我が法の中に於て比丘と作り、助佛道の法を精勤修習して、當に作佛することを得べし、娑羅樹王と號けん。國を大光と名け、劫を大高王と名けん。其の娑羅樹王佛は、無量の菩薩衆及び無量の聲聞あつて、其の國平正ならん。功德是の如し。其の王、即時に國を以て弟に付して王と夫人・二子并に諸の眷屬と、佛法の中に於て出家し修道しき。王出家し已つて、八萬四千歳に於て、常に勤め精進して妙法華經を修行す。是れを過ぎて已後、一切淨功德莊嚴三昧を得つ。即ち虚空に昇ること高さ七多羅樹にして、佛に白して言さく、

世尊、此の我が二子已に佛事を作しつ、神通變化を以て、我が邪心を轉じて佛法の中に安住することを得、世尊を見たてまつることを得せしむ。此の二子は是れ我が善知識なり。

宿世の善根を發起して、我を饒益せんと欲するを爲ての故に、我が家に來生せり。

爾の時に雲雷音宿王華智佛、妙莊嚴王に告げて言わく、是の如し是の如し、汝が所言の如し。若し善男子・善女人、善根を種えたるが故に世世に善知識を得。其の善知識は能く佛事を作し、示教利喜して阿耨多羅三藐三菩提に入らしむ。大王當に知るべし、善知識は是れ大因縁なり。所謂化導して、佛を見、阿耨多羅三藐三菩提の心を發すとを得せしむ。大王、汝此の二子を見るや不や。此の二子は已に會て六十五百千萬億那由他恒河沙の諸佛を供養し、親近し恭敬して、諸佛の所に於て法華經を受持し、邪見の衆生を愍念して正見に住せしむ。

妙莊嚴王即ち虚空の中より下りて佛に白して言さく、世尊、如來は甚だ希有なり。功德・智慧を以ての故に、頂上の肉髻、光明顯照す。其の眼長廣にして紺青の色なり。眉間の毫相白きこと珂月の如し。齒白く齊密にして常に光明あり。唇の色赤好にして頻婆果の如し。

爾の時に妙莊嚴王、佛の是の如き等の無量百千萬億の功德を讚歎し已つて、如來の前に於て一心に合掌して、復佛に白して言さく、世尊、未曾有也。如來の法は不可思議の微妙の功德を具足し成就したまえり。教戒の所行安穩快善なり。我今日より復自ら心行に隨わじ、邪見・憍慢・瞋恚・諸惡の心を生ぜじ。是の語を説き已つて、佛を禮して出でにき。

佛、大衆に告げたまわく、意に於て云何、妙莊嚴王は豈に異人ならんや、今の華德菩薩是れなり。其の淨德夫人は今の佛前に光をもつて照し

たもう莊嚴相の菩薩是れなり。妙莊嚴王及び諸の眷屬を
哀愍せんが故に、彼の中に於て生ぜり。其の二子は今の藥王
菩薩・藥上菩薩是れなり。

是の藥王・藥上菩薩は此の如き諸の大功德を成就し、已
に無量百千萬億の諸佛の所に於て衆の徳本を植え、
不可思議の諸善功德を成就せり。若し人あつて是の二菩薩の
名字を識らん者は、一切世間の諸天・人民亦禮拜すべし。佛
是の妙莊嚴王本事品を説きたもう時、八萬四千人遠塵離垢し
て、諸法の中に於て法眼淨を得たり。